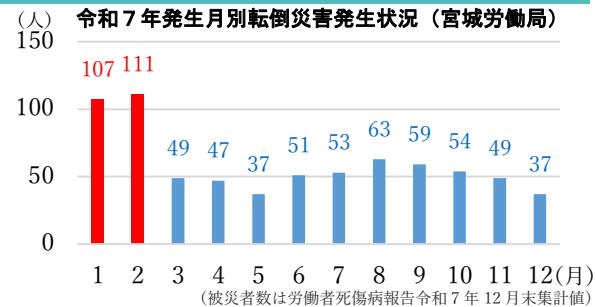
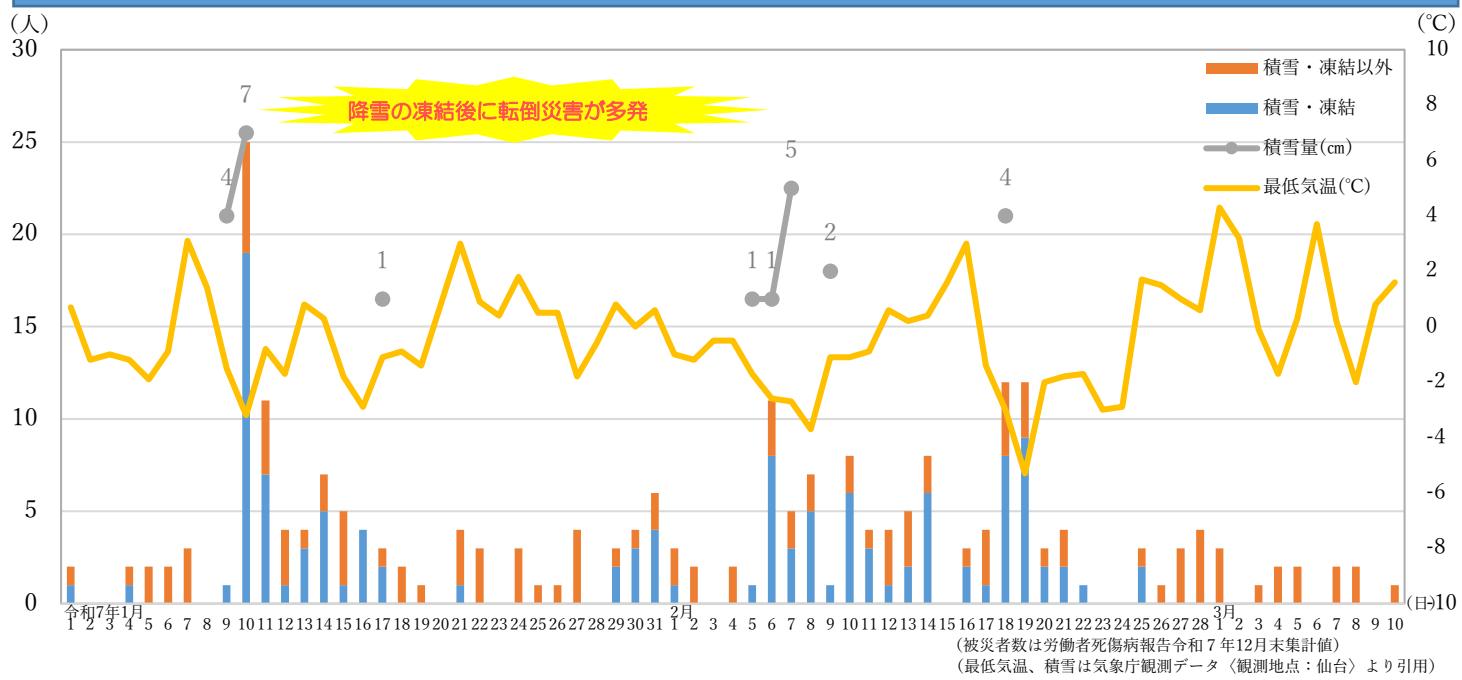


積雪・凍結による転倒災害を減らしましょう！

宮城労働局管内では、例年冬季に積雪・凍結に起因した転倒災害が多発しています。令和7年においても1月から2月に発生した休業4日以上の転倒災害218人のうち、積雪・凍結に起因するものが54.6%(119人)を占めている状況です。冬季における転倒災害の減少を図るために、冬季特有の転倒災害の防止対策の実施をお願いします。



宮城労働局管内の転倒災害(休業4日以上)の発生状況（令和7年1月～3月上旬）

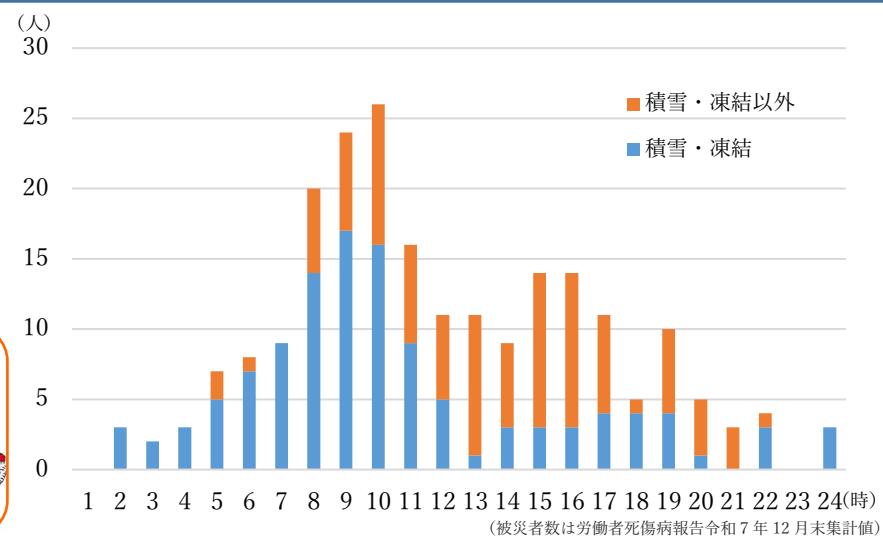


令和7年は、1月9日から10日にかけて大雪となり、仙台では積雪7cmを記録し、積雪・凍結に起因する転倒災害が大幅に増加しました。雪が解け始めたら路面凍結の可能性が高く、特に注意が必要です。最低気温が氷点下となる日は凍結による転倒災害が多くなっています。

宮城労働局管内の転倒災害(休業4日以上)の発生時間別の状況（令和7年1月～2月発生分）

積雪・凍結に起因する転倒災害は、7時から11時の時間帯に多発しており、出勤時などは特に注意が必要です。積雪・凍結箇所のほか、事務所入室時に靴裏に付着した雪で滑り転倒する災害も発生しています。

冬靴の耐滑性にはご注意を！！
 靴底の減りが大きい靴は滑りやすくなります。靴底のすり減り状況を確認しましょう。



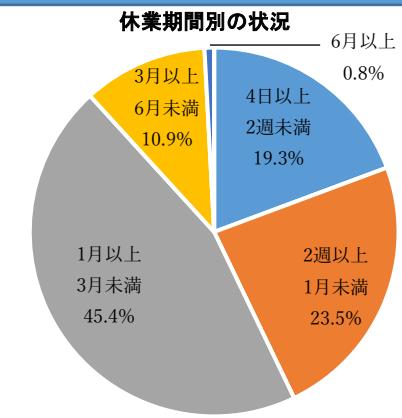
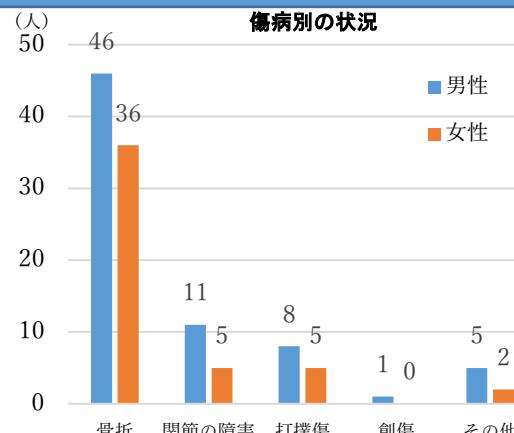
厚生労働省ホームページでは安全衛生対策のほか、外国人労働者向け安全衛生教育教材等も掲載しておりますので、「安全衛生教育」や「職場環境の改善」等への取組みの参考にしてください



宮城労働局管内の積雪・凍結による転倒災害(休業4日以上)の被災程度等の状況

積雪・凍結に起因する転倒災害のうち約7割は手足等を骨折する重傷災害です。

被災程度別では、休業1か月以上3か月未満が45.4%、次いで2週間以上1ヶ月未満が23.5%、3ヶ月以上6か月未満が10.9%と、転倒災害が発生すると、休業日数は長期化しています。

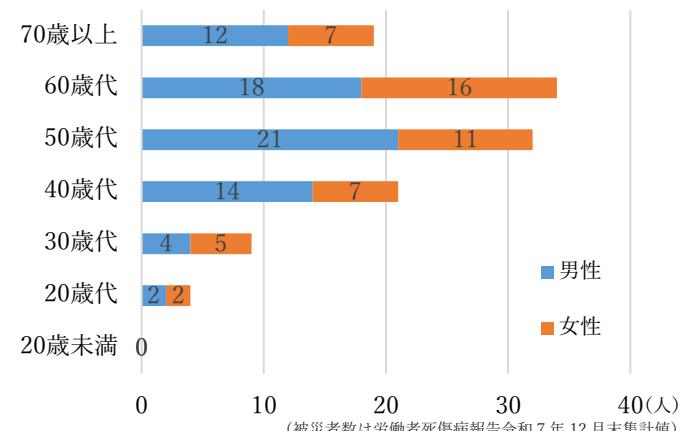


(被災者数は労働者死傷病報告令と7年12月末集計値)

宮城労働局管内の積雪・凍結による転倒災害(休業4日以上)の年齢、男女別の状況

積雪・凍結による転倒災害の被災者の年齢別では、50歳代が26.9%、60歳代が28.6%、70歳以上が16.0%と、50歳以上の高年齢労働者の占める割合が高くなっています。働く高齢者の特性に配慮した転倒災害防止対策を実施しましょう。

厚生労働省では「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン（エイジフレンドリーガイドライン）」を策定しています。



(被災者数は労働者死傷病報告令と7年12月末集計値)

冬季における(積雪・凍結による)転倒防止対策について

転倒災害は、降雪や低温の日が多い年に増加します。

降積雪が本格化する前に、冬季における転倒災害防止対策について準備をしましょう。

気象情報の活用によるリスク低減の実施

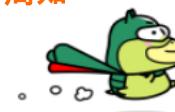
- ・大雪、低温に関する気象情報を迅速に把握する体制の構築
- ・警報・注意報発令時等の対応マニュアルの作成、労働者への周知
- ・気象状況に応じた出張・作業計画等の見直し

通路・作業床の凍結等による危険防止の徹底

- ・屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布による安全通路の確保
- ・事務所への入室時における靴裏の雪・水分の除去、凍結のおそれのある屋内の通路、作業場への温風機の設置等による凍結防止策の実施
- ・屋外通路や駐車場における転倒災害のリスクに応じた「危険マップ」の作成、労働者への周知
- ・凍結した路面、除雪機械通過後の路面等における荷物の運搬方法・作業方法の見直し
- ・凍結した路面や凍結のおそれがある場所（屋外通路や駐車場等）での滑りにくい靴の着用の勧奨

手はポケット
に入れないよ

時間に余裕を
もって。安全
に歩行しよう。



厚生労働省と労働災害防止関係団体は、休業4日以上の死傷災害で最も件数が多い転倒災害を減少させるため、転倒災害防止対策を推進しています。



職場の現状を確
認して、必要な改
善をしよう！

